

# きよさと 組合だより



JA 清里町

No.358



優秀安全運転事業所 金賞受賞

## 各組織等総会報告



|                        |    |
|------------------------|----|
| 清里町農協青年部総会             | 2  |
| JA清里町女性部総会             | 2  |
| 馬鈴しょ採種組合連合会総会          | 3  |
| 玉葱生産組合総会               | 3  |
| いちごつ子部会総会              | 3  |
| 種子麦生産組合総会              | 3  |
| 長いも生産組合総会              | 3  |
| そば生産組合総会               | 4  |
| くるるの杜・対面販売             | 4  |
| 和牛生産改良組合学習会            | 5  |
| 長いも生産組合学習会             | 5  |
| きよさと農業塾                | 6  |
| 営農技術懇談会                | 6  |
| 青年農業者大会                | 7  |
| JA清里町カルチャースクール         | 7  |
| フレッシュミズ料理交流会           | 8  |
| フレッシュミズ部冬季学習会・スポーツ交流開催 | 9  |
| JAグループ北海道座談会           | 10 |
| 持続可能なJAの事業運営を考える①      | 14 |
| 食育教育活動                 | 15 |
| 理事会の経過をお知らせ致します        | 16 |
| ご結婚おめでとう               | 16 |
| ちよつと一服                 | 17 |
| 組合員状況                  | 17 |
| 新規採用職員をご紹介します          | 17 |
| 退職にあたって                | 17 |
| ベジタブルライフ               | 18 |





# 各組織等 総会報告

## ●清里町農協青年部総会

2月25日、第58回清里町農協青年部定期総会がJA清里町2階会議室にて開催され、青年部員64名（内委任状10名）が出席、議案第1号「平成31年度事業報告並びに



監査報告、収支決算報告について」議案第2号「役員改選について」議案第3号「令和2年度事業計画（案）」並びに収支予算書（案）について」議案第4号「令和2年度部費の徴収方法について」提案されました。質疑には、収支決算書、予算に関して、栽培試験の結果について、今後の展示圃場の使い道、異業種交流会に関して等が挙げられ、総会は終了しました。

### ★令和2年度 清里町農協青年部役員

部長 五味 信哉（第2集団）  
副部長（農兼） 谷本 和樹（第6集団）  
副部長（農兼） 新井 大地（第10集団）  
書記 森田 有哉（第1集団）  
代表理事 田村 淑弥（第7集団）  
理事 安田 晃浩（第1集団）  
宇佐美誠也（第6集団）  
佐々木勇太（第7集団）  
辺見 裕介（第8集団）  
興水 優作（第9集団）  
菊池 拓哉（第8集団）

## ●JA清里町女性部総会

2月18日、第45回女性部通常総会が清里町生涯学習総合センターにて開催されました。来賓にはJA清里町三上専務、清里町櫛引町長、網走農業改良普及センター栄田支所長、清里町農民連盟二俣委員長をお招きし、女性部員138名（内委任状25名）出席のもと、網領朗唱から開会しました。

森善子さん（第4集団）と荒木直美さん（第7集団）が議長に選出され、議案第1号「令和元年度事業報告並びに収支決算」議案第2号「令和2年度事業計画（案）」並びに収支予算（案）議案第3号「役員改選」他について審議されました。質疑には、関係団体とのイベント活動について、視察研修について等が挙げられ、総会は終了しました。

### ★令和2年度 JA清里町女性部役員

部長 前中 房枝（第8集団）  
副部長 佐藤 美紀（第2集団）  
岡本 寛美（第4集団）  
書記 柳谷亜紀子（第3集団）  
荒木 直美（第7集団）  
営農生活部

三上由香里（第8集団）  
長谷川知恵美（第10集団）

## 文化体育部

目黒 純子（第1集団）

大槻美和子（第6集団）

監事 高田 美晴（第5集団）

岡崎 まり（第9集団）

フレッシュミズ部長

岩本 美香（第3集団）

アカシヤ部会長

桑名 早苗（第8集団）



## ★馬鈴しよ採種組合連合会総会

1月30日、JA2階会議室にて第48回馬鈴しよ採種組合連合会総会が開催されました。

議案審議では、議案第1号『令和元年度事業報告並びに収支決算報告、監査報告について』議案第2号『令和2年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について』議案第3号『役員改選について』議案第4号『規約の変更について』が提案されました。質疑で決算の詳細に関して質問された他、事務局よりミニコン・大コンの取り扱いについての説明が行われ、総会は終了しました。

### ◆令和2年度役員

・組合長 菅原 健一  
・副組合長 長谷川 仁



## ★玉葱生産組合総会

1月27日、第36回清里町玉葱生産組合定期総会がJA清里町2階会議室にて開催されました。組合員18名（委任状2名）が参加し、議案審議に入りました。

議案第1号『令和元年度経過報告及び収支決算報告並びに会計監査報告』議案第2号『令和2年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について』事務局より提案されました。質疑には、視察研修や産地パワーアップ事業に関する質問が挙げられました。議案第3号『その他』では、事務局よりDB助成、大コン購入について等の報告がなされました。

### ◆令和2年度役員

・組合長 大藤 満広  
・副組合長 浮須 伸尚



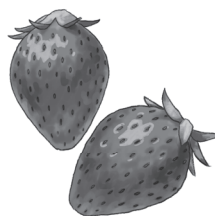
## ★いちごっ子部会総会

2月12日、いちごっ子部会第22回通常総会が、JA清里町会議室にて開催されました。

部会員5名が出席し、議案第1号『令和元年度経過報告及び収支決算報告について並びに監査報告』議案第2号『役員改選について』議案第3号『令和2年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について』事務局より提案されました。質疑なく全ての議題が承認され、総会は終了しました。

### ◆令和2年度役員

・組合長 辺見 洋子  
・副組合長 吉田 久美



## ★種子麦生産組合総会

2月10日、清里町種子麦生産組合第10回総会が、JA清里町2階会議室にて開催されました。

議案第1号『令和元年度事業報告及び収支決算報告について』議案第2号『令和2年度事業計画（案）及び収支予算（案）について』議案第3号『役員改選について』が提案されました。議案第2号では、視察研修に関する質問が挙げられました。その他、特に質疑等無く総会は終了しました。

### ◆令和2年度役員

・組合長 中平 哲也  
・副組合長 佐藤 学





## ★長いも生産組合総会

2月21日、第33期長いも生産組合の総会が開催され、生産者17名（内委任状2名）が出席し、議案審議が行われました。

議案第1号『令和元年度事業報告並びに収支決算報告について 会計監査報告』議案第2号『令和2年度事業計画案並びに収支予算案について』が提案されました。質疑には、収支決算、対面試食販売に関してが挙げられ、議案第3号『その他』において、品質維持に向けた取り組みや従業員・人員についての話題が取り上げられました。

### ◆令和2年度役員

・組合長 塚田 勉  
・副組合長 市橋 敦史



## ★そば生産組合総会

2月25日、第31回清里町そば生産組合定期総会が開催されました。総会には組合員12名（委任状3名）が参加、議案第1号『令和元年度経過報告及び収支決算報告並びに会計監査報告について』議案第2号『令和2年度事業計画（案）及び収支予算（案）について』議案第3号『役員改選について』事務局より提案されました。また、議案第4号『その他』において実績報告、そばの販売価格等に関する報告がなされ、総会は終了しました。

### ◆令和2年度役員

・組合長 柿大町ファーム  
・副組合長 石井 卓也



くるるの杜・対面販売

## 冬のイベントで清里町をPR

2月22日、ホクレンくるるの杜・冬のイベント『雪まつり』に合わせ、清里切麦と長いもの対面試食販売を実施して参りました。

清里切麦は生うどん・なべ焼きうどん・カレーうどん・清里やきそばバーベキュー味／ガーリックバター味、そして、昨年の11月に新発売となったあんかけやきそば



を販売、長いもにおいても一本売りの対面販売を行いました。

試食ではあんかけやきそばとやきそばバーベキュー味を提供。広い年代のお客様から「麺がおいしい」「味が良いね」と言ってご購入いただきました。長いもの対面販売では、『清里町産長いも』を目当てに来てくださった方もおり、品質を存分にPRし、昼過ぎまでもなく10ケース分（150本）が完売となりました。

今後も北海道清里町と特産品の知名度向上に繋がる活動を進めて参ります。



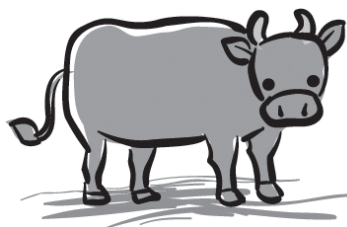


## 外部講師を招き 知見広める



12月11日、JA清里町2階会議室にて、和牛生産改良組合の学習会が開催されました。講師には明治飼糧株式会社を招き、哺育における生産者の悩みに対しての注意点や踏まえておくべきポイントの説明がありました。

2月14日には、一般社団法人畜改良事業団十勝種雄牛センターを講師にお招きして学習会が行われました。2019年の道内黒毛市場の価格動向及びゲノミック育種価、事業団の新規種雄牛について説明がなされました。



## 調査結果から学ぶ

2月28日、長いも生産組合の学習会が開催されました。講師には普及センター檜館氏をお招きし、『長いもマルチ栽培比較試験』での生育調査や、粘り気の調査結果について説明がなされました。結果としては、マルチ無し・マルチ慣行区・マルチ通年区で大きな差はなかったものの、試験年の気象条件が良かったことに起因するだろうとの説明がなされました。

参加者から、これまでにマルチをかけて栽培してきた生産者から意見を聞きたいとの発言があり、対象となる生産者の意見が話されました。また、もう1年試験を継続してほしいという要望や資料・原価の計算についての意見等も挙がりました。

学習会後には、マルチ無し・マルチ慣行区・マルチ通年区のそれぞれの長いもの食味試験が行われました。





きよさと農業塾

## 農薬への知識深める

2月21日、きよさと農業塾の肥料農薬学習会が開かれました。ホクレン北見支所生産資材課を講師にお招きし、農業塾7期生・8期生の7名が参加しました。

講師からは、農薬の効能や薬害といった基礎に始まり、農薬を扱う世界・国内の情勢、系統の農

薬事業と取り組みについて説明されました。その他、ドローンによる農散布といった取り組みの紹介も行われ、塾生たちは興味深そうに聞いておりました。塾生からはドローンの普及や使用する場合の具体的な質問等が挙がり、知見を深める機会となりました。



営農技術懇談会

## 組合員の80・0%が参加

2月18日から20日の3日間にわたり、令和元年度営農技術懇談会が開催されました。JA農畜産課、普及センター、ホクレン原料所との意見交換が行なわれ、今回も多くの組合員に参加していただくことができました。

農畜産課からは、集団別の生産実績をはじめ、馬鈴しょの新品種紹介と生育調査の報告、早期枯渇について、輪作体系の改善について説明されました。普及センターからは、秋まき小麦高品質・多収栽培に向けたお話を前年度の多収要因や気象推移から説明していただき、ホクレン原料所からは、生産実績と風害から昨年度の振り返りを行った他、GPSによる春作業の省力化、褐斑病・テンサイ黄化病について、直接支払交付金の改定についての説明がなされました。

組合員からの質疑には、馬鈴しょ新品种の特性や作付けについて、輪作体系、ネグサレセンチュウ・萎萎縮病に関して、今シーズンの凍結深度、昨年の風害の被害

程度・対応等について挙げられた他、GPS自動操舵や他の作物の新品種情報といった方面の要望も挙げられました。



## 青年農業者大会

# 3 集団 浅井雅志さんが入賞



12月11日に開催された令和元年度オホーツク総合振興局管内青年農業者大会にて、青年農業者が日頃の活動を通じて得た技術や問題に対する意見等の発表が行われました。当町からはアグリメッセー

ジ畑作部門にて清里町プライスクラブの浅井雅志さん（3集団）が「農業経営者は、政治家のようなものだ」の表題で参加、最優秀賞を受賞されました。他部門では、プロジェクト発表地域活動部門で堀江周平さん（遠軽）、農産経営部門で小崎光さん（上湧別）、畜産経営部門で岡田拓也さん（遠軽）が最優秀賞を受賞されました。

負っていく責任の重さに気づいたことについて発表されました。多くの責任があっても、農家とは素晴らしいものだと感じている、と浅井さん。「小さな芽さえあればいずれまた大きな葉を出し大地に根を張りまた実をつける。どんなにすごい先生でも教えてくれないことを作物たちがその身をもって私に教えてくれました。」日々の農作業の中で受ける感動に、これからも農家を続けていきたいと力強い意志を語ってくださいました。

## ★担当の元木普及職員から一言

「題名の通り、目線を変えて農業経営者について捉えた点が素晴らしいと思います。今後、農業経営者を受け継いだ際は、リーダーとしての責任感を忘れずに取り組んでほしいです。」



## J A清里町カルチャースクール

# 来所をきっかけに、J Aに親しみを

2月20日、J A 2階会議室にてカルチャースクール『年金受給セミナー』が開催されました。

セミナーの講師には、J A北海道信連J Aバンク推進課の戸松課長と宮前氏をお招きし、『年金制度の主な種類と受け取る年金』『老後にどんな年金を受け取れるか』『年金の保険料』『国民年金はいくらもらえるのか』『厚生年金はいくらもらえるのか』『年金の受給手続き』『老後のマネープラン』といった内容についてご講話

いただき、また、60〜65歳の収入イメージも説明されました。質疑には、年金の繰上げ・繰下げの受給率、年金や専従者給与取得に際する税対策、国民年金納入未達の場合の対処等について質問が挙がり、要望として年金申告に際してJ Aに書類保管やお手伝いを依頼できないかとの意見も挙がりました。

今回のカルチャースクールでは、参加された方々からたくさんのご質問をいただき、充実したイベントとなりました。今後もち

した活動を通じて、J Aに親しみをもってもらい、J Aを利用するきっかけとなることを願っております。







フレッシュミズ  
料理交流会  
**みしゃねな料理と  
交流楽しむ**



12月20日、清里町生涯学習総合センターにてJA清里町女性部フレッシュミズ部の料理交流会が実施されました。  
今回は「パンキッシュ」「ゴボウチップス」「ポテトソリー」「韓国風唐揚げ」「わたあめソーダ」「ブッシュドノエル」の6品を作りました。



おしゃべりを楽しみながら和気藹々とした雰囲気の中で交流会は進み、終始笑い声の溢れるイベントとなりました。パーティー向きの華やかなメニューも作られ、おいしいだけでなく目にも楽しい料理交流会となりました。





## フレッシュユミズ部

# 冬季学習会・ スポーツ交流開催

1月22日、JA清里町2階会議室にてJA清里町フレッシュユミズ部の冬季学習会が開催されました。

講師には、清里町役場地域産業開発グループの北川氏と町民生活グループの長坂氏をお招きし、それぞれ『防災について』『ゴミの減量化を図ろう』の題目でご講和いただきました。『防災について』では、近年の災害状況をはじめ、防災の基本や町内にある危険箇所・避難所等の説明が行われました。質問には、昨年のブラックアウトや防災セットについて、オホーツク海での津波や斜里岳が噴火した場合の避難について聞かれました。『ゴミの減量化を図ろう』では、ゴミの減量に向けた分別の再確認や現在の分別方法における注意点が説明されました。農機具部品の捨て方やゴミ処理場の受

入、町の回収ボックスについて等の質問が挙がった他、意見・要望として、ゴミ回収の頻度やプライベート保護について発言がなされました。

お昼を挟んでからは、清里町トレーニングセンターにおいてスポーツ交流会が開催され、バドミントンで体を動かしました。集団混合の7チーム対抗で試合が行われ、集団の垣根を越えて親睦を深めることができた交流会となりました。







信用事業のあり方をめぐり、道内 108 ＪＡでは 2019 年 4 月までに①単独②合併③信用事業譲渡（代理店化）の 3 つの選択肢に基づく検討が行われた。農協改革集中推進期間が終了する一方、マイナス金利の長期化に伴い、信用事業における奨励金水準の段階的な引き下げが始まる。ＪＡをめぐる環境の変化を踏まえ、今後も持続可能な経営基盤をどう維持していくのか。北海道大学・小林国之准教授の進行で、「持続可能なＪＡの事業運営」について道内ＪＡ関係者にご議論いただいた。

## 【出席者】

小林 国之

北海道大学大学院農学研究院准教授

柴田 倫宏

ＪＡ北海道中央会専務理事

宮本 英靖

ＪＡピンネ代表理事組合長

佐藤 正昭

ＪＡこしみず代表理事組合長

出典：「北海協同組合通信 2020 新春特集号」

「持続可能なＪＡの事業運営」北海道協同組合通信社

## 信用事業は全道で約35億円の減少

小林 今日テーマは「持続可能なＪＡの事業運営」。農協改革については、ＪＡグループの自己改革に一定の評価も出てきているが、経営の視点から見ると、これからかなりシビアな状況が予想される。特に 20 年度から農林中金の奨励金引き下げが始まり、金融事業を中心とした都府県のＪＡだけではなく、農業地帯の北海道のＪＡにとっても非常に大きな課題になっている。まずは農協改革や金融環境の変化を踏まえた農協経営のあり方として、全道の方向性と各ＪＡの取り組みなどをうかがいたい。最初に中央会が 19 年 4 月に取りまとめた各ＪＡのあり方検討の状況を。

柴田 5 年間の農協改革集中推進期間が 19 年 5 月に終了し、ひとつの区切りがつけられたが、この間にいろいろな改革を求められてきた。同時に、金融情勢もマイナス金利が長期化し、日本の経済システムが大きく変わり、そこに農協も飲み込まれつつある。持続可能な事業運営に向けて全道 108 農協の皆さんはどう考えていくのかということ、農林中金の奨励金引き下げを前提にそれぞれシミュレーションしてもらい、単独、

合併、信用事業譲渡の 3 つの選択肢も示しながら、19 年 4 月までに各農協で再点検していただいた経過にある。

その結果、108 農協のうち、コスト削減や販売強化などに取り組みながら、単独の総合事業体としてやっていくと回答したのは 94 農協で、このほか事業基盤強化のため合併を検討したいと回答したのは 11 農協だった。このうち 8 農協はすでに合併検討委員会などの枠組みがあるが、枠組みなしのところも 3 農協含まれている。また、あり方検討とは事情が異なるが、日高の 3 農協が信用事業譲渡を選択している。

なお、検討に当たっては、農林中金やＪＡ道信連からの還元率を一律で設定し、各農協の中期計画などをもとに 2023 年度の収支見通しをシミュレーションしていただいた。日高 3 農協を除く 105 農協の部門別事業利益を見ると、17 年度と比較して信用事業は全道で約 35 億円のマイナスが見込まれるほか、共済事業も長期共済保有高の減少により収益率が下がるため約 11 億円減、購買事業も約 12 億円減。このほか、販売事業利益は微増の 2 億円、その他が 9 億円増で、事業総利益全体では約 47 億円のマイナスとなっている。





こばやし くにゆき  
小林 国

1975年北海道生まれ。北海道大学大学院農学研究科を修了後、助教を経て2016年から現職。地域連携経済学研究室。主著「ホクレン販売事業にみる経済連の組織機構と機能」「総合農協のレーゾンドートル」「北海道から農協改革を問う」など。

これに対し、事業管理費は12億円増えるため、経常利益は71億円のマイナス。17年度と比較して35%ほど厳しくなるという結果が出ている。

**宮本** 当農協でも影響は大きく、シミュレーションの結果、22年には現行と比較すると信連からの奨励金で約5000万円ほど落ちる。しかし、今までも農協本来の姿は、組合員の結集があつて、われわれが農産物をしっかり集荷して有利販売することが第一で、この農産物の販売が金融・共済、経済事業につながっていくというイメージです。ずっとやってきている。これからもしっかり組合員の理解をいたさながら、農産物の集荷率を高め、さらに系統が有利販売を続けていけば、何とか乗り切っていけるだろうと考えている。

**小林** しかし、5000万円というのは大きな額だ。畑作・酪農地帯に比べて水田地帯は貯貸率が低く、預金運用が中心。より大変

なのではないか。

**宮本** 確かに貯貸率は7%で預金の割合が高く、その分今回の奨励金引き下げは非常にきつい。ただ販売面においては、おかげさまで米の集荷率が93%と高い。これから農協に対する組合員の理解をつないでいきながら、農協離れを食い止めることによって、信用事業の減収分は全体でカバーできるというのが基本的な考え方だ。

2006年に営農センターを立ち上げ、営農部と農産部をひとつの組織に入れると同時に、営農部の中に営農渉外課を設けた。このスタッフは4人で、仕事は農家回りが専属。中身は生産資材の推進、営農相談、農作業の人材派遣とさまざまだが、それによって農協への結集と集荷率の向上が図られ、その延長で金融、共済事業に結びついていけばいいと考えている。実際に渉外課を始めてから販売高は2億5000万円ほど伸びてきた。こうした取り組みを進め

ていくことがこれからの農協経営にとって重要だと考えている。

**小林** ピンネの営農渉外課は、全国的に見るとTACに近い仕組みだと思う。組合員との関係性や若い世代の変化は。

**宮本** 営農渉外課の組合員訪問は毎日のことなので、特に何も用意せずにかがうことが多いが、その中で、基本的に農協は皆さんがつくって皆さんが利用する組織であり、いいところ取りでは大変なことになる、皆さんが結集すること

が大切だという指導は欠かさなようにしている。併せて青年部組織にも渉外課の担当者などが顔をだし、青年部の中から次の農協の経営者が出てくるということも伝えてきており、それによって若い世代の意識も少しずつ変わってきた気がする。また、以前は渉外課に女性スタッフがおり、そのため農家のお母さんや娘さんなどの相談ごとでも聞くことができた。これは職員の配置を工夫しながら将

来に向け再設置を考えている。



しばた みちひろ  
芝田 倫宏

1966年生まれ、北海道大学農学部卒。88年北農中央会入会、90年函館支所、95年常広支所、99年農業対策部畑作農業課、2006年札幌支所、09年基本農政対策室、12年農業対策部畑作農業課長、13年同酪農畜産課長、16年東京事務所長、17年常務理事、19年9月から現職。

**小林** 全国的に見ても農家の女性の声をきちんとくみ上げるというのは重要な取り組みであり、北海道はまだ足りない部分があるが、農協への結集力という面からも、経営主はもちろん、女性の声を聞くことでさらに広がりが出てくると思う。このほか、組合員との対話という意味では、ピンネでは全職員が農事組合組織などに向向く一斉推進にも取り組んでいる。

**宮本** それは渉外課とはまた別の「相談機能」という組織体で、121人の職員を5人平均で21班に分け、管内全地区に割り振り、春は米の契約や水田の作付け、秋は集荷体制の相談などに出向いているもの。農協からの押し付けではなく、組合員からも頼りにされており、逆に「来てくれ」と言われて行くこともある。

**佐藤** 問題は、われわれは金融農協ではなく、販売農協だということ。まずそこをしっかりとって

来に向け再設置を考えている。



みやもと ひでやす  
宮本 英靖

1953年生まれ。拓殖大学北海道短期大学卒。99年にJAピンネ監事、2002年代表理事専務を経て、08年から現職。17年からは空知農協連副会長、空知管内農協組合長会副会長、ホクレン理事を務める。道農協米対策本部委員。

いけないといけない。農協は金融・共済で成り立っていると見られがちで、もちろん金融の利益もあるが、基本は営農指導であり、それによって農家の皆さんの生産力を上げていくための組織。常にそこを真ん中に置いてやっていくことが大切だ。さりとて、金融・共済は農家組合員だけでなく地域住民からも頼りにされている。うちも准組合員が6割以上を占め、地域住民に支えられている部分がある。小清水には郵便局と信金もあるが、金融のシェアは農協が約7割。地域住民の生活を守るために必要な組織になっている。

シミュレーションについては、うちは交付金を入れた年間の売上が140億円ほどあり、貯金は260億円ぐらい扱っているが、5年後には事業利益が約5000万円減る。その先はもっと減る可能性もある。しかし、そこは工夫次第だろう。当然これからも金融事業は譲渡せずにしっか

りやる。

ただ、営農指導の中身を細かく見ると、土地の売買から税金対策、農作業事故の対応、さらには冠婚葬祭や高齢者の悩みなどの相談など、相当幅広いことをやっている。これから金融・共済が厳しくなっていくとすれば、そこは組合員にきちんと説明し、営農指導はすべて無償という認識は、少しずつ変えてもらわなければならないだろう。そのためには、組合員に正確な情報を伝えていくことが大切。今は当たり前になっていることも、実は当たり前ではないということ、を伝えることが大事だと思う。

小林 組合員の理解や教育という面で、小清水は地域の歴史を組合員に伝えるなど積極的に取り組んでいる。

佐藤 そこを一生懸命やらないと、自分一代でここまで来たような感覚になって、ひとりで何でもできると錯覚する人が出てきてしまう。先ほど米の集荷の話があっ

たが、うちは畑作3品が中心なので少し違うけれども、系統利用が当たり前という空気をつくっておくことは大切。生産部会などでもただ罰則規定を設けたのでは「ペナルティを払えばいいだろう」という話になるが、そうではなく、皆で決めたことは皆で守り、地域で守るという意識を持つてもらわなければ。それが寄り集まって農協への結集につながる。そのためには農協としても組合員が何を求めているのかを知り、いかにしてこちらを向いてもらうか、ということが一番大事になってくると思う。

小林 一連の農協改革の動きについて、実際に組合員の人たちはどれぐらい危機意識を持っているのだろうか。例えば中央会の連合会化など、人ごとのような思いがあると思えば、そこは問題だと思う。

### 農政運動の重要性を再確認

佐藤 多くの組合員にとっては人ごとだろう。しかし気にしている部分はあるし、よく言えば、組合長や役員に任せておけば安心だと思ってくれているのかもしれない。それが人ごとではないと伝えるには、ひとつは組合員教育をやって、政治に興味を持ってもらう努力をすることだろう。小清水では5年ほど前に農民連盟が解散したが、そうなると思えば勉強する場所もなくなってしまう。そのため新たに農政協議会をつくり勉強してもらっている。北海道の農業は交付金の割合が大きく、中央会を中心とした農政活動があって初めて経営が成り立つ。決して自分ひとりの力で生活できているわけではない。そこはきちんと制度を含めて教えていかなければ。

ただ、今はいろいろなところから情報が入るし、農業団体と同じ



さとう まさあき  
佐藤 正昭

1948年生まれ。93年JAこしみず理事、02年から現職。08年からホクレン理事、11年からオホーツク農協組合長会会長、オホーツク農協連代表理事会長、JA道中央会理事、JA全農総代などを務める。



ような活動をする組織も出始めている。そうすると、われわれが国に要請してやっと積み上げてきたものが、メールなどですぐ手に入る。それも言ってみれば情報のいいところ取りで、農協も農連も関係ないという人が出てくることになる。これから先はそういうところにも注意を払っていかなければならない。

**小林** 中央会も9月から連合会となったが、北海道のJAグループを代表する組織として、これまで中央会が果たしてきた機能や役割、存在意義などを、末端の組合員にも見えるような形に変え、発信していく必要がある。

**柴田** 中央会も連合会になってスリム化しなければならぬし、やるべきことはきちんとやらなければならぬ。そういう思いで19年4月に第4次中期計画を立て、3つの基幹事業とともに、農政事業を重点事業として位置づけた。その中で特に農政運動については、かつてのガット・ウルグアイラウンドの時代は、外圧を利用して自ら勉強し、組織に結集するという、まさに協同組合運動の原点とも言える状況があったと思うが、WTOが空中分解して2国間の経済連携に移ってきたことから、後の農協改革の影響などもあ

り、運動の機会がなくなってきたのは事実。中央会が進むべき道は中期計画に示したが、組合員教育を含めた具体的な運動のあり方なども考えていく必要があるだろう。

**佐藤** 私が組合長になった当時はWTOがあり、よく全道の組合長の皆さんと一緒に運動に出た。国にも要請に行ったり、全国大会などにも参加した。しかし最近はその機会が減り、参加する組合長も少なくなっている。こういうものは自分で参加して経験することによって、組合員に対してしっかりと説明できるようになる。農政運動の中でもそこが今、非常に足りないところだと思う。

**柴田** 農業団体が大会や集会を開催すると、外からは「こぶしを挙げている」と見られてしまうかもしれないが、実際はそれにより組織内の結集が高まったり、地元に戻ったときにより正確な情報を組合員に伝えられるという側面もある。そこをもう一度考え直さなければいけないのかもしれない。JA全中主催の大会も開かれなくなったが、ここ2年「全国フォーラム」という名前で開催しており、農政運動に対する危機意識の表れだと思う。

**佐藤** そこは形を変えてでもや

らないとだめだ。農協改革の中でひとつよかったのは、うちの組合員は中央会の役割を理解してくれている。ホクレンに対してはいろいろ言うが、「中央会は絶対に必要な組織」という理解が組合員にあったこと。正直意外だったがすぐくうれしかった。やはり農政活動をしっかりとやっていることが伝わっているのだと思う。非常に大事なことであり、ここを緩めてはいけない。

**柴田** 農協というのは経済事業体であると同時に運動体であり、手法を含めて運動体の部分をやや疎かにしてきたことが、今日の組合員の組織離れを招いている可能性もあり、そこは中央会の役割が大い。しっかりとやらなければならぬ。

**小林** なかなか伝わりにくい部分であり、特に比較的若い世代は農政運動という言葉に距離を置きながら、農政運動の成果として手にしてきたものは非常に大きい。しかし最近では個人が自由にやることを助長する仕組みになっていて、国が示す政策の方向に沿い「それにどう合わせるか」という手法に変わってきているように見えるが。

**柴田** 確かに、畑作物などは当時の品目横断など北海道主導で仕

組みをつくってきたが、米は全国の仕組みの中でどう北海道に合った運用にしていくなかというのが、最近の動きになってきている。特に米政策の見直しが始まったここ数年、農政運動の中で農水省とも意見交換を重ねながら、北海道が求める具体的な仕組みを北海道提案型で強く誘導してきた部分がある。

**宮本** 具体的には、全国一律の米政策の中で、産地交付金について地域でフリーに配分できるように仕組みを要望し、道枠と地域枠というやり方で対応してもらったのが大きなポイントだと思う。また米の作付面積に関しても、加工用米などのいわゆる水張り転作に地域で自由に組み入れるようになってきているが、これもわれわれが要請しながら、農水省と一緒に仕組みをつくってきたもの。ここはもう少し広げていきたいと思っている。

**小林** これからもそうした地道な農政運動の成果を地域農業の振興や農協事業に結びつけていくことが重要。ただ、本来はそれらがすべて一体となって展開してきたのが日本の農協の特質であり、今はそこが分断されてきているという課題もある。

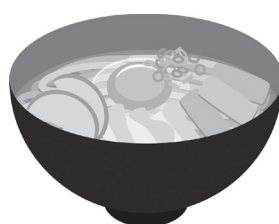
(つづく)



食育教育活動

『給食会』で

地場産食材を実感



12月20日、清里小学校家庭科室にて清里小学校3年生の児童36名とJA清里町三上専務、太田管理部長、辺見青年部長、清里町岸本教育長、清里小学校平野校長、梶原栄養教諭を交えての給食会が実施されました。

給食会では、清里産の玉葱・馬

鈴しょ・清里うどんを使った特別メニュー『カレーうどん』と、同じく清里産の長いもと『清小楽しいキッズスクール農園』で生徒が植付け・収穫した馬鈴しょを使った『じゃがいもと長いものチーズ焼き』が用意されました。

開催にあたって、JA清里町森野課長より給食に使われている清里産野菜、うどんとその原料である小麦粉（きたほなみ）について実物を用いて紹介。給食センターの梶原栄養教諭からはどのメニューに何の食材が使われているか説明されました。

説明後には、参加した関連機関と子ども達が一緒に給食を囲み、児童からは「おいしい」という声や料理の中の食材を見つけて同級生と楽しそうに話す姿が見受けられました。



## 理事会の経過を お知らせ致します



### 第12回

12月16日

#### 付議事項

- 議案第1号 平成31年度（令和元年）期中値引き（奨励）の実施について
- 議案第2号 令和元年度産でん粉加工料の決定について
- 議案第3号 理事に対する供給限度額の変更について
- 議案第4号 令和2年度土地評価基準の設定について
- 議案第5号 令和2年度営農計画樹立に係る作物別単価の設定について
- 議案第6号 固定資産の仮発注について
- 議案第7号 令和元年度給与改定

について

議案第8号 従業員に対する12月期賞与の支給について

#### 協議事項

- 1. 第10期総合5ヶ年計画の素案について
- 2. 令和2年度事業運営方針（案）について

#### 報告事項

- 1. 令和元年度産原料てん菜の糖分状況について
- 2. 平成30年度産共計でん粉の本精算について
- 3. 理事の連帯債務に対する資金の貸付に係る報告について
- 4. 監査代替的調査（期中）の実施結果について
- 5. 内部監査の実施結果について

### 第13回

12月26日

#### 報告事項

- 1. 経営所得安定対策の単価改定をめぐる情勢と今後の対応について
- 2. 畑作・青果をめぐる情勢と対応について
- 3. 令和2年度畑作物作付指標面積の設定について
- 4. 令和元年度クミカン精算（12

月見込み）について

5. 令和元年度産農協幹旋種子馬鈴しよ精算総括について

6. 平成30年度産大豆の本精算について

7. 平成30年度産麦類の本精算について

8. 令和元年度産民間流通小麦2次概算金の支払いについて

9. 各係会議の意見集約について

10. 営農集団長会議の意見集約について

11. 来運地区Gp土壤検診の結果について

12. 余裕金の運用状況について

13. Etec（フィンテック）の動向について

14. 平成31年度（令和元年）期中値引き（奨励）の実施報告について

15. 組合員の加入・脱退および事業の実施状況の報告について

16. 令和2年1月～4月の行事予定について

17. 内部監査の実施結果について

### 第14回

1月22日

#### 付議事項

- 議案第1号 組合員の資格変更並びに出資の減口について
- 議案第2号 清里町農業委員会委

員の推薦について

議案第3号 令和2年度内部監査方針および監査計画について

#### 協議事項

1. 令和2年度役員報酬の諮問について

#### 報告事項

- 1. 令和元年度クミカン実績報告について
- 2. 令和元年度産原料てん菜生産実績について
- 3. 令和元年度ホクレン中斜里製糖工場ジャガイモシロシストセンチュウ対策結果について
- 4. 固定資産の取得について

### 第15回

1月30日

#### 付議事項

- 議案第1号 清里町農業委員会委員の推薦について

### 第1回

2月12日～13日

#### 付議事項

- 議案第1号 令和2年度固定資産取得に向けての仮発注について
- 議案第2号 信用供与の最高限度額の決定について

## 第2回 3月4日

### ■ 監査講評

1. 令和元年度事業の監査報告について

### 付議事項

議案第1号 令和2年度固定資産取得に向けての仮発注について

議案第2号 購買事業規程の一部改正について

議案第3号 信用事業規程の一部改正について

議案第4号 JA冬季懇談会の意見集約について

議案第5号 令和元年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、附属明細書、注記表および部門別損益計算書の承認について

議案第6号 第72回通常総会の開催及び提出議案について

議案第7号 令和2年度経営定期点検実施計画について

### 報告事項

1. 令和元年度産原料てん菜代金の仮精算（64万トンまで）について

2. 令和2年度麦作センター事業固定資産取得価格交渉結果について

3. 令和元年度内部監査室業務活動報告について

4. 令和元年度コンプライアンス・

議案第3号 貸付金利率の最高限度の決定について

議案第4号 余裕金の運用方針および運用方法について

議案第5号 余裕金の預け先の決定について

議案第6号 定年退職者に対する特別加給金の支給について

議案第7号 定款の一部改正について

議案第8号 令和2年度事業計画（案）について

議案第9号 令和2年度員外利用料率（単価）の設定について

議案第10号 冬季懇談会の実施について

### 報告事項

1. 令和元年度玉葱の選果終了報告について

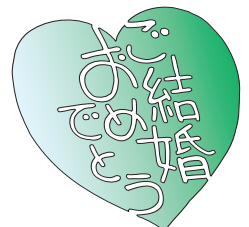
2. 畑作構造転換事業（令和元年度補正予算）の概要について

3. 令和元年度年間経営定期点検実施報告について

4. 組合員の加入・脱退の報告について

5. 監査代替的調査（期中Ⅱ）の実施結果について

プログラムの取組状況について  
5. 令和元年度単体キャッシュフロー計算書について  
6. 令和元年度自己査定の結果について  
7. 労働保険事務組合の令和元年度徴収・納付状況について  
8. 内部監査の実施結果について



大岸 直裕さん（第6営農集団）  
荒木 祐香さん（清里町）

## 黒田 正一さんの果樹栽培の「その後」

ちょっと一服



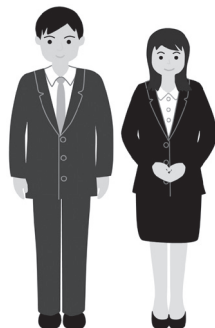
組合だより令和元年9月号で紹介した、組合員OBの黒田正一さん宅の果樹は、あれからそれぞれ収穫を迎えたとのことでした。鈴生りに生っていた柿はそのまま熟成させて『特製干し柿』に。梨や林檎は味がボケないよう保存し、残った桃も「砂糖を少し入れて煮て、冷凍してある」と長くおいしく食べられる工夫をしながら冬の間も秋の恵みを楽しまれたようです。



## 組合員状況

〈令和2年3月1日現在〉

| ■組合員数     |        | 〈前回報告より〉 |
|-----------|--------|----------|
| 正組合員（個人）  | 221名   | （変動なし）   |
| 〃（法人）     | 13法人   | （変動なし）   |
| 准組合員（個人）  | 1,299名 | （12名減）   |
| 〃（法人）     | 0法人    | （変動なし）   |
| 〃（団体）     | 19団体   | （1名減）    |
| （合計）1,552 |        |          |



### ■新規採用のご紹介

令和2年1月1日付

○梅田 仁（業務部燃料自動車課）

### ■退職のお知らせ

令和2年2月29日付

○渡部 志乃（業務部業務課勤務）

### ★新規採用職員をご紹介します



○名 前 梅田 仁  
うめだ ひとし

○生年月日 昭和54年10月5日

○出身地 斜里町

○出身校 釧路市私立  
緑ヶ岡高等学校

○趣味・特技 釣り

○配属先 業務部燃料自動車課  
機械センター

○抱 負

今年の1月から燃料自動車課に勤務させていただきます。

前職は、中セキ北海道で22年間整備の業務に携わってききました。今までの経験を活かせる様に、先輩方に聞きながら仕事を覚えていきたいと思っています。

まだわからないことも多く、組合員の皆様の顔と名前を覚えるところから始めて、JA清里町の職員として馴染んでいける様に努力して参ります。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願い致します。

### 退職にあたって

渡部 志乃



陽春の頃、組合員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私事ですが、この度2月29日をもちまして清里町農業協同組合を退職致しました。

平成31年に入組してから、業務部業務課に約1年間勤めさせていただきました。

業務課では窓口業務や電話対応、事務作業等これまで経験したことのない業務や作業を、手取り足取り丁寧に教えていただきました。初めはとても緊張しておりましたが、日が経ち徐々に慣れていくにつれ、職務にあたることを楽しく感じていたのを記憶しています。

組合員の皆様には入組当初から多々ご迷惑をおかけしましたが、窓口業務等を通じて数多くのご指導、ご鞭撻、暖かなお声をい

いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

学生生活では主に野生動物について学び、農業に接する機会がほぼ無く、何も知らない未熟な私が今日まで勤めてこられましたのは、組合員の皆様をはじめ、役職員、諸先輩方のご理解と温かいご支援の賜と深く感謝致します。

最後となりますが、清里町農業協同組合の益々のご発展と、組合員の皆様、役職員の皆様のご健勝とご多幸を御祈念申し上げます。退職の挨拶とさせていただきます。短い間となりましたが、大変お世話になりました。







## ニラ

～元気の源！ スタミナ野菜～

### ニラのプロフィール

【分類】ヒガンバナ科ネギ属

【原産地】東アジア

【おいしい時期(旬)】

通年だが主に春(3～6月)

【主な栄養成分】

アリシン、β-カロテン、カリウム、ビタミンK、  
葉酸など

### 見分け方

葉の幅が広めで、  
肉厚

葉先までピンとしてい  
る(鮮度良好)

まずい

美しい緑色で、張  
りツヤがある

鮮度が良くない  
変色している

葉先が折れていたり、  
しおれている

切り口がみずみ  
ずしく香りが良い

### 保存方法

傷みやすぐ  
サレての  
2～3日以内に  
使い切ろう



調味料として活用!  
刻んでみそやしょうゆ  
などに漬けておく

#### 冷蔵保存

冷蔵庫の野菜室で立てて保  
存の全体をラップで包むか  
乾燥しないよう新聞紙など  
で包んでポリ袋に入れる

#### 冷凍保存

1か月ほど保存可能。そのまま汁物や  
鍋物、炒め物に! 洗って水気を拭き  
取り、使いやすい大きさにカット、小分け  
にしてラップで包むか保存袋に入れる

### ニラのチカラ



#### アリシン

ニンニクや木芋にも含ま  
れる強い香りの成分。ビ  
タミンB1の吸収を高めて糖の代  
謝を促進する働きがあり、疲労回  
復やスタミナ増強に役立つ



#### β-カロテン

緑色の部分に多く含  
まれる抗酸化作  
用があり、免疫力向上、風邪  
予防、美肌、老化予防に効  
果が期待できる

#### 葉酸

増血作用があり、貧血予防に  
効果的。女性は特に不足しや  
すく、妊婦の方にも有効



#### ビタミンK

骨の強化や  
健康維持に役立ち、  
止血作用もある

#### カリウム

利尿作用がありむく  
みの改善に効果的。  
高血圧予防にも

### 楽しみ方・食べ方のコツ

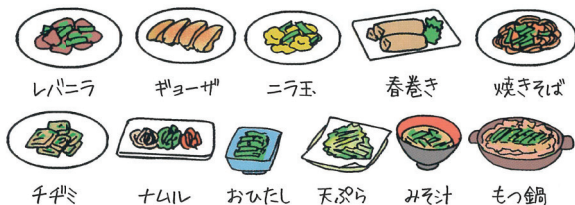
一年中出回るため、夏バ  
テ予防のスタミナ食材と  
して、また冬の風邪予防  
にも。春は比較的柔ら  
かく、優しい味わい



昔も今も元気の源

油や肉などの食材と  
相性が抜群!  
定番スタミナメニューに!

### 中華料理・韓国料理・日本料理



#### 香り・風味



やりやりまで無駄なく!

根元に近い白い部分は  
食感と香りが強く、アリシ  
ンが葉先の4倍以上含  
まれているといわれている

鮮度が良ければ生でもOK

生春巻きやサ  
ラダ、スープや麺類  
のトッピングに。下  
処理不要で手軽  
に使える



#### 香りで食欲増進

葉先より根元を利用  
する。肉などの臭み  
消しになり、ビタミンB  
1の吸収も高まる!



味よい風味に深  
みが出る同じユリ科  
の仲間、ニンニクや木  
芋と併せて使う

#### 加熱は短時間で

炒めるときはサッと、汁  
物や鍋物には最後  
に加える



### ニラのいろいろ



#### 葉ニラ

一般的な緑色のニラで、長  
さは30cm程度。特有の香  
りが特徴。炒め物、鍋  
物、汁物の他、刻んで  
ザンザン、チヂミ、たれに入れ  
るなど、使い方は多様



#### 花ニラ

葉ニラの茎が伸び、つぼみが付  
いた状態。花茎とつぼみを食べ  
る品種。甘くて柔らかく、歯応え  
が良く、香りはマイルド。油で炒め  
ると食感の良さが楽しめる



#### 黄ニラ

日光に当てずに軟白栽  
培したもので、別名「ニラ  
もやし」。薄い黄色で、柔ら  
かく、香りも優しい。味は  
ほんのりとした甘味があり、癖がない



#### 木芋ニラ

木芋と交雑育種された  
新品種の葉幅が広く、ボ  
リューム感があり、調理し  
ても存在感がある。食べ  
応えも十分

### ニラのヒミツ

歴史 日本へは  
中国から伝来



『古事記』には「賀美良(かみら)」と  
いう名前が登場

平安時代の薬物事典『本草  
和名』にも「葎(ニラ)」の和名は  
古美良(こみら)」と記されている

古くは滋養強壮に役立つ漢方薬として、  
明治時代以降に野菜として栽培